

WEEKLY SIGNAL

平成27年8月28日(金) 1289号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	8/31(月)	9/1(火)	9/2(水)	9/3(木)	9/4(金)
無担保O/N			0.030% ~ 0.125%		
銀行券	+ 900	+ 1,000	+ 1,000	+ 1,000	トシ
財政他	△ 3,200	△ 10,000	△ 15,000	△ 5,000	+ 4,000
資金需給	不 2,300	不 9,000	不 14,000	不 4,000	余 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税 交付税特会借入・償還		交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,100 CP等買入 △ 2,900 国債補充供給 + 100	共通担保(全店) △ 7,300			共通担保(全店) △ 7,200 成長基盤強化 △ 3,800
オペスタート	共通担保(全店) + 1,600 CP等買入 + 3,500 ETF買入 + 400	短国買入 + 8,000 国債買入 + 5,400 共通担保(全店) + 8,500			
(日本)	鉱工業生産指数(7月) 貸出約定平均金利(7月) 決済動向(7月) 石油統計(7月) 住宅着工統計(7月) 建設工事受注額(7月)	法人企業統計調査 (法人季報4-6月期) 国内銀行の資産・負債等 銀行勘定(7月末) 新車販売台数(8月)	中尾ADB総裁、講演(横浜市) マネタリーベース(8月) 日銀当座預金増減要因 (9月見込) 日銀営業毎旬報告 (8月31日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	木内日銀審議委員、講演 (青森市) 対外対内証券売買(前週分)	毎月勤労統計(7月)
(海外)	米 シンコ製造業景況指数(8月) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (8月、速報値)	米 建設支出(7月) 米 ISM製造業景況指数(8月) 米 ホストン連銀総裁が講演 欧 ユーロ圏製造業PMI (8月、改定値) 欧 ユーロ圏失業率(7月)	米 ベージュブック 米 MBA住宅ローン申請指数 (8月28日終了週) 米 ADP雇用統計(8月) 米 4-6月非農業部門 労働生産性(改定値) 米 製造業受注(7月)	米 新規失業保険申請件数 (8月29日終了週) 米 貿易収支(7月) 米 ISM非製造業景況指数 (8月) 欧 ECB金融政策発表 ドラギ総裁が記者会見 欧 ユーロ圏総合PMI サービス業PMI(8月、改定値)	米 雇用統計(8月) 米 リッチモンド連銀総裁が講演 欧 ユーロ圏4-6月GDP (域内総生産、改定値) 欧 EU外相理事会 (ルクセンブルク、5日まで)

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

＜インターバンク＞

当座預金残高は週初、227兆2,900億円であった。その後は短国・国債買入を主因に増加し、週末は231兆5,900億円で越えた。無担保コールON物は、週を通して概ね0.075~0.077%のレンジを中心に安定的に取引されたが、26日には、試取りによる0.12%超の出合が複数件みられたことから、加重平均金利は0.080%へ上昇した。ターム物は、2W物で0.11%台後半の出合いが中心。東京株式市場では、中国景気の減速懸念から週初から売りが加速した。26日まで6営業日続けて下落し、終値は1万7,806円70銭となり、今年の2月17日以来、約半年ぶりの1万8,000円割れとなった。その後は海外株式市場の反発を受け、週末の終値は1万9,136円32銭まで買い戻された。来週の予定は、木内日銀審議委員講演(3日)、海外では、ベージュブック(2日)、ECB金融政策発表(3日)、米国雇用統計(4日)などが挙げられる。

＜オープン市場＞

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.070 ~ 0.090
TDB 3M	△0.010 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

＜CP＞

今週の入札発行額は約14,500億円で、期落ち額約16,300億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%台後半~0.100%台後半で推移した。期越え物が好まれた一方、9月中償還物でも、足切が大きく流れる銘柄は見られなかった。現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約4,400億円程度となっている。

＜TDB＞

27日に国庫短期証券3M第554回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0020%(前回債△0.0059%)、平均落札レートは△0.0056%(前回債△0.0087%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.001%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合いはなかった。来月3日に3Mの入札が行われる予定である。

＜レポ＞

足許GCは先週に引き続き0.09%近辺の出合から始まり、週央までは概ね0.08~0.09%のレンジで推移した。8月末受渡となる27日のS/Nでは、0.065%近辺の出合から始まったが、徐々にレートが低下し0.05%まで出合をつけた。28日のT/Nでは一部0.035%での出合も見られるなど更にレートが低下した。9月1日受渡となる週末には短国・国債買入オペが合計1兆3,400億円オファーされたが、レートは0.065%まで上昇し越えた。

SCは10年336・337回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。5年債は123・124回債、10年債は323・327・328・329・330・333・334・335・338回債、20年債は153回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。